

陳 情 文 書 表

受理番号	陳情 3 第 2 3 号	受理年月日	令和 3 年 8 月 3 0 日
件 名	「区立保育園の民営化に関する計画（令和 3 年度から 1 1 年度）素案」の撤回を求める陳情書		
【陳情の趣旨】 ・民営化計画素案の表現に問題があるのではないか 詳細を知らない区民や保護者が計画素案を読んだときに、民営化を肯定して誘導するような誤解を招く表現が散見されました。 ①民営化の成果として、私立園の「延長保育が 2 時間へ拡大」されたことが挙げられていますが、区立園でもすでに夜間保育を実施している園はあります。むしろ、区立園でもできる体制はあるにも関わらず、一部の園でしかおこなっていないのは、区がニーズを把握して対応していないという課題ではないでしょうか。 ②民間ならではの特色ある保育として「裸足保育」や「縁側給食」が挙げられていますが、区立園でもすでに実施されていることです。民間ならではの特色とは言えず、また、区立園がそういった保育を実施していないという誤解を生みます。 ③民営化された園の第三者評価の利用者アンケートの結果、7 割の満足度が得られているとのことですが、説明会で聞いたところたった 1 園の結果とのこと。なお、ひもんや保育園においては 9 割以上の満足度となっています。詳しいことがわからない保護者や地域住民に対して、あたかも「区立園と同等ないしそれ以上に良好」と誤認させるための文章のように見え、素案の内容への不信感が募ります。当該民営化園のアンケート結果の内容を調べると、「どちらとも言えない」「いいえ」との回答が「安全対策」では 6 割以上、「園との信頼関係」と「子ども同士のトラブルへの対応」の設問においては 5 割を占めており、決して良好な満足度とは言えないのではないでしょうか。 ④区立園と民営化園の申込者数の比較について。区立園の申込者数の平均値の中には、すでに廃園に向けて縮小している区立鷹番保育園も含まれています。また、築 6 0 年に近い区立園の園舎と民営化された新築の園舎との比較であります。さらに民設民営化された 5 園は民営化以前から申込者数の多い園です。このような事情を割愛して、単に「区立園よりも申込者数が多い」と表記することは、誤った理解への誘導とも思えます。実際に東京都保育ニーズ実態調査（2 0 1 9）によると、公立園を希望した家庭は 5 1. 9 % にも関わらず、実際に公立園に入園できた家庭は 1 7. 0 % であったという調査結果があり、公立園へのニーズは高いことがうかがえます。 これらの素案内容の表現について問題があるのではないかと説明会で区に質問したところ、「同様の指摘を複数いただいている」とのことでした。誤解や誘導のない素案に書き換えたのちにあらためて意見募集をし説明会を開いてほしいという要望をしたところ「できない」との回答で、保護者や地域住民に正しい情報を伝えることは現在もできないままの状態です。			

- ・民営化計画の内容に問題があるのではないか

①対象に挙がっている園の今後について、未定の部分が多いです。子どもの受ける影響について判断する材料があまりにも少ない状態で、保護者に対しこの素案に理解を求める事に無理があります。

②区立園として残される10園の位置が偏っており、選定方法に理解ができません。区立園は福祉避難所、緊急一時保育の受皿としての役割をもつとしながら、鷹番、碑文谷地区から消滅することは地域住民として納得できません。素案では、一般区民向けの防災計画をそのまま適用しており、医療的ケア児をもつ家庭、妊婦、障害者の視点に立った計画とは言い難く、机上の空論と言わざるを得ません。

③在園児にとって、転園や保育士が変わることは大きなストレスになります。それを入園前に知らされないまま、入園先を選択させられたことに憤りを感じています。保育士については、縮小や転園によってどの程度の変化があるのか明記されておらず不安です。また、合併を予定している各園は、小学校の学区が異なります。区立園から公立小学校への進学にも関わらず、子どもにとって大きな環境変化が強いられる計画には問題があると言わざるを得ません。

- ・全国的な保育士不足

区の努力により私立園が急増し待機児童は解消されました。しかし私立園における保育士の定着率の低さは改善されているのでしょうか。目黒区の調査による保育士の平均勤続年数(2018年)は、区立が20～30年、社会福祉法人立10～20年、株式会社立2～5年とお聞きしました。保育士の人材不足や厳しい労働環境が問題となっている中で、定着率の高い区立園の保育士の人員は、削減するのではなくむしろ増やすべきと考えます。園児、保護者とも保育士と時間をかけて信頼関係を築くことで、保育園生活が安心して過ごせるのです。

- ・説明会で納得ができず不安が払拭されない

7/6ひもんや保育園第1回保護者説明会(分散開催のうちの1回目)、7/10区民向け説明会(中小企業センター、緑が丘文化会館)、7/31オンライン説明会が行われました。計画素案の読み上げが15分、質疑応答が45分(延長した会もあり)でしたが質疑がなくなる事はなく閉会しました。不安軽減のために質疑したものの求めていた回答は満足に得られず、8/27ひもんや保育園有志の会がひもんや保育園の転園の可能性のある0、1歳児クラスの保護者を対象にアンケートを行いました。31人中29人において回答が得られ、計画素案を知ってから説明会に出るまでの気持ちとして、回答した全家庭が現行の計画に反対(計画そのもの、あるいは計画の一部に対して反対)であり、さらに第1回保護者説明会に参加した保護者のうち、「不安が軽減・払拭された」と回答した人はおらず、「民営化がより不安になった」「説明会以前と気持ちに変化はない」と現行の計画素案に後ろ向きな回答結果となりました。

- ・署名数について

ひもんや保育園の保護者有志が立ち上げた民営化計画(素案)の撤回を求める署

名は8月29日時点において電子署名1068名、紙署名3169名に達しました。在園児保護者や卒園児保護者だけでなく近隣住民や私立園の保護者も区立園の存続を希望し署名されています。

これまで保育の充実を目指してこられた多くの方々、そして行政の努力のおかげで私たちは素晴らしい保育園に入園することができました。経験豊かな保育士のもと、地域とともに歩み、子どもの成長を支えてきた保育園です。その歴史の賜物が今、失われようとしています。私たちの子、孫、さらにその先の世代まで、心と体の基盤となる大切な時期の子どもを育む豊かな財産を残すべきと思います。

区立園は「区全体の保育の質を向上させる中心拠点」（素案より）と位置づけられています。私立園の増加に伴って本来は増やすべき区立園がこれ以上減れば、バランスが崩れ、私立園を含む地域全体の保育現場が混乱するリスクがあります。私立園と区立園がバランスよく上手に連携しあうことで保育の質が向上し、目黒区における子育て環境がよりよいものになるのではないのでしょうか。

以上の理由より、保護者や地域住民の声を無視して民営化を強行せず、より多くの区立保育園が存続できる案を区に再度模索していただきたく、「区立保育園の民営化に関する計画（令和3年度から11年度）素案」の撤回を要望しますので、区に働きかけてくださるよう陳情いたします。

【陳情事項】

下記の事項について、議会から区に対して働きかけてください。

「区立保育園の民営化に関する計画（令和3年度から11年度）素案」を撤回してください。